

胃腸の調子 整えて

川堀病院 川堀勝史院長に聞く



病院の 実力

*広島編 115

痔の手術

排便に大きな支障を来す「痔」は老若男女を問わずにかかると身近な病気だ。恥ずかしさから、診察をためらいがちだが、早めに治療を始め、悪化させないことが重要だ。「痔は生活習慣と深い関係がある病気」と話す「川堀病院」（広島市南区）の川堀勝史院長（62）に治療法や予防法などを聞いた。（聞き手・原典子）

痔には大きく分けて「痔核（いぼ痔）」「裂肛（きれ肛）（きれ痔）」「痔ろう（あな痔）」の3種類があります。いずれも便秘や下痢などの排便不良が原因です。

肛門の周辺にできるいぼ状の腫れ「痔核」。外側に行ける外痔核の場合は、切除するしかありませんが、内側の内痔核では、注射で腫れをしぼませるALTA療法がこの10年ほどで普及しました。

「恥ずかしがらずに、早めの治療を」と呼びかける川堀院長（広島市南区で）

ツトです。腰に麻酔を打ち、肛門の開け閉めを担う括約筋の動きを止めて、患部をよく確認してから注射します。所要時間は10分程度。局所麻酔で日帰り出来るクリニックもあるようですが、当院の場合は、患部をきちんと確認できるように腰椎麻酔を使うため、1泊2日かかります。2、3年以内の再発率は5%程度です。

痔核結紮切除術とALTAの併用治療は10〜15分。やはり腰椎麻酔を使い、1週間〜10日間入院が必要で

す。

便秘が原因で女性にも多いのが、硬い便で肛門周辺が切れる裂肛です。排便を改善し、傷に塗り薬を塗れば治りますが、「切れる」「自然治癒」を繰り返すと、肛門周辺の皮膚が硬くなつて、お尻の穴が狭まります。こうなると、正常な大きさ

に戻す手術が必要です。硬くなった部分を切つて、肛門がさらに狭まらないように縫合します。入院は1週間、完治まで1か月必要です。

下痢がちな人がなりやすい痔ろうも早期治療が大切です。浅い場所に管ができて

いる状態なら除去も容易ですが、うみのトンネルが深くなり、枝分かれして複雑化すると、括約筋を傷つけないように手術するため難易度が上がります。治療にかかる期間は最も長く、入院は10日から2週間。完

治までは2〜3か月といったところ

規則正しい生活とバランスの取れた食事、胃腸の調子を保ち、便通を乱れさせない。唐辛子やコショウが利いた食事や粘膜を傷つけるので、食べ過ぎは良くありません。

同じ姿勢で長時間過ごすことや冷えも禁物です。長時間座ったままになることが多い運転手や受験生の患者は多い。時々、立ち上がって体を伸ばし、血流を良くすることも予防に有効です。